

2019年9月13日
日立トリプルウィン株式会社

日立トリプルウィンの農業クラウドシステムをロシアのいちご生産に導入 オプティムの Smart Field との連携による国境を越えた遠隔でのいちご栽培支援を実現



東農大がロシアで生産したいちご

日立トリプルウィン株式会社(取締役社長：相島 正美/以下、日立トリプルウィン) 食・農事業部が支援する、ロシア連邦(以下、ロシア)でのいちご生産の実証実験での成果が、2019年9月3日からロシア・ウラジオストクで開催された「第5回東方経済フォーラム*1」にて発表されました。

日立トリプルウィンは、本事業の主体である東京農業大学(学長:高野 克己/以下、東農大)に対して自社商品である農業クラウドシステム「Marsun(マーサン)-IoT サービス」を提供し、農場運営の効率化に貢献しています。

【ロシアでの日本式生産モデルにて高品質ないちご生産技術の確立をめざす実証実験】

日立キャピタルグループは2016年6月に、国内外での食・農分野の発展に貢献することを目的に東農大と産学連携協定を締結し、農作物における国際認証の取得*2などで連携してきました。本連携の一環で2019年2月より、東農大がロシアの極東連邦大学との学術協定にて行っているロシア・ウラジオストクでのいちご生産の実証実験に対して、日立トリプルウィンの農業クラウドシステム Marsun-IoT サービスを提供しています。Marsun-IoT サービスは、環境センサー情報や生産作業情報をはじめとする農場の各種情報をデータ蓄積し「農場運営の見える化・共有化」を実現するクラウドシステムです。また、その蓄積データを分析・活用し生産技術の標準化や作業工数の最適化や縮減で効率化をはかります。

本実証では、日立トリプルウィンの Marsun-IoT サービスと、株式会社オプティム(代表取締役社長：菅谷 俊二/以下、オプティム)のウェアラブルデバイスを用いた遠隔操作支援サービス「Smart Field」を組み合わせることで、東農大は、日本にいながらロシア駐在の学生に対してきめ細かな栽培支援等を行えます。

「Smart Field」は、スマートグラス等のウェアラブルデバイスやスマホを用い、現場と遠隔地をリアルタイムで画像共有・遠隔作業支援を行ったり、作業記録・タスク管理、AI解析によって、働く方を強力にサポート出来るシステムです。

本実証実験では、株の防除や測定の際に画像・音声認識等を活用することにより入力作業の省力化がはかれ、「見えない・伝わらない」といった双方向の現場課題を、遠隔地よりサポートすることが可能となります。

尚、同サービスを利用した日本とロシアの国境を越えた遠隔でのいちご栽培支援等を行う事例は、本件が初めてとなります。

日立キャピタルグループは経営方針に「社会価値創造企業」を掲げ、「金融」・「サービス」・「事業」を組み合わせて新しい価値を提供することをめざしています。今後も東農大をはじめとするパートナー企業との連携を通じて、国内外における食・農関連産業の発展に貢献して参ります。

*1 『第5回東方経済フォーラム』

<https://forumvostok.ru/en/>

*2 2017年8月22日付ニュースリリース 『東京農業大学と日立キャピタルグループが産学連携の成果としてグローバルGAP認証を取得』

<https://www.hitachi-capital.co.jp/hcc/newsrelease/2017/20170822.pdf>

■ MARSUN-IoT サービス概要について

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/attach/pdf/smartagri_catalog_shisetsu-82.pdf

■ スマートフィールド概要について

<https://www.optim.co.jp/smartfield/>

■ 照会先

日立トリプルウィン株式会社

[本件担当:食・農事業部 武藤]

〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目3番1号

TEL 050-3816-2136

株式会社オプティム

[広報担当:村上]

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目2番20号

TEL 03-6435-8567

E-Mail : press@optim.co.jp